

咳喘息患者では過去喫煙の気道炎症への影響は乏しい —典型的喘息との比較—

長崎忠雄¹⁾、松本久子¹⁾、伊藤功朗¹⁾、小熊 毅¹⁾、井上英樹¹⁾、岩田敏之¹⁾、田尻智子¹⁾
金光禎寛¹⁾、出原裕美¹⁾、新実彰男¹⁾²⁾、三嶋理晃¹⁾

京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学¹⁾

名古屋市立大学大学院医学研究科腫瘍・免疫内科学²⁾

【目的】未治療咳喘息例(CVA)における過去喫煙と気道炎症との関係について、典型的喘息例(WA)と比較し明らかにする。

【方法】未治療成人CVA（非または過去喫煙例）74例、WA96例において気道炎症、末梢血液像、呼吸機能に対する過去喫煙の影響について横断的に解析した。

【結果】CVA、WAとも過去喫煙例は非喫煙例より高齢で、男性が多かった。過去喫煙例はCVA と WA で各々23%、22%と頻度に差はなく、年齢、性別にも差はなかった。喫煙歴に関わらず、呼気NO (50 mL/s)、痰好酸球%、末梢血好酸球数はCVAで WA よりも有意に低く、FEV₁/FVC、%FEV₁、FEF_{25-75%}は高値であった。一方非補正肺胞NO濃度 (CANO)、AX、R5-R20は、過去喫煙例でのみCVAと WA に差を認めた (CVAでCANOが低く、気流閉塞が弱い)。年齢・性別を補正した過去喫煙例と非喫煙例の比較では、WAでは過去喫煙例で%FEV₁が低く、非補正・補正CANOが高値であったが、CVAでは過去・非喫煙例で差のある指標はなかった。

【結論】過去喫煙は、典型的喘息における末梢気道炎症に寄与するが、咳喘息では中枢・末梢気道とも、過去喫煙の影響は少ない可能性が示唆された。